

居合道 だより

第176号

太宰府天満宮



はじめに

春の訪れとともに福岡の緊急事態宣言が解除された。さあこれからだ。しかし油断することなく感染予防対策を継続しながら新しい稽古方法を模索していこう。

緊急事態宣言中、休館中の道場でひとり居合を抜いてみた。今までの師匠の言葉を思い起こしながら。

道場には、居合で尊敬する Y 先生の書や地元の書家の作品が数点飾ってある。それを見ていると居合と書道は相通じており、居合のお手本になることがたくさんあることに気付く。

活字の文字より肉筆文字。楷書から行書、草書等へと書体は違っても、筆の流れ、勢い、柔らかさ、力強さ、美しさ、そして書全体のバランス等は、抜き付け、切りつけ、血振り、納刀、そしてそれらを繋げていく動きにも通じている。

さらに最後は残心、間にも通じる半紙に墨のついていない部分、空白の美であろう。

居合とは、はじめ三角、つぎ四角、六角、八角と次第に角が取れて行き、しまいには円になる。しかし円いなかにも角がなければならぬ、と教わった。

まるで仙崖和尚の世界。分かったようで分からないようで分かった気分になってくる。

数十年の間、その時々で色々な言葉を稽古の励みや指針にしてきた。

一生懸命、切磋琢磨、千鍛万錬、克己、木鶏、無心、心を研ぎ澄ます、魂を削る、、、、等々。

相反するような言葉の羅列。答えを出すつもりはない。ただ、頭で分かること、心（魂）で分かること、血肉で分かることは全く別物である。

すなわち分かる と 出来る はまったく違うということである。分かるを出来るにするのが稽古である。

頭で理解したから出来ると勘違いすることが多すぎる。小生が良い例で未だにこの体たらくである。

剣友諸君！この厳しい時代、どうか居合をより好きになって稽古に励んで欲しい。きっと今までと違った何かが見えてくる。居合を通じて自分の人生をより豊かなものにして欲しい。自分自身のためだけで良い。そうしたらそれがきっといつの日かまわりの人のためにもなるのだから。

いくつになっても角の取れない人間の独り言である。

三月の予定

3月7日（日） 福岡県居合道段位審査会

福岡市総合体育館

編集後記

春はあけぼの やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる

言わずと知れた「枕草子」です。清少納言が宮中の雅な世界を描写したのですが、春になると思い出して口ずさんでおります。

2月中過ぎごろから春めいてきて、暖かい日も増えてきました。最高気温19度を超える日もありましたので外に出たい虫が湧いてきております。

まだ寒い日もあり寒暖差が大きいのですが、表紙の太宰府天満宮の梅は満開に咲き誇り芳しい香りを漂わせて、まさに春爛漫。少しコロナも下火傾向になり緊急事態宣言も解除され、またGOTOも再開されることでしょう。

今月は1週目に段位審査会が催される予定ですが、受審者の皆さんは、くれぐれも花冷えで風邪などひかないようご注意ください。

よく審査会のご挨拶で「いつも通りやればいいんです、いつもやっている稽古を審査するんです」とおっしゃっておられます。そう言われても緊張しますよね。そんな時は何か自分のスイッチを作っておくといいようです。いわゆるルーティーンというやつです。験担ぎとも言いますか。簡単なことでもいいのです。例えば両手で太ももをポンポンと叩くとか、首をぐるぐるっと回すとか、何かきっかけになれば「覚悟」が決まります。すると体もそちら方面に活動を開始します。ぜひやってみてください。

皆様のご武運をお祈りしております。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第176号 令和3年3月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社FEW